

### 3 評価に係る実践例について

#### (1) 授業実践例として

《学校における食育による子どもの育ち(内容)をどう読み取るか

～評価の手法と解釈～》

宝塚市立西谷小学校

## 学校における食育による子どもの育ち（変容）をどう読みとるか ～評価の手法と解釈～

学校において食育を行うことによる子どもの育ちは、食に関する知識・技術の習得のみならず、精神面の成長などもともなう多面的かつ総合的なものである。よって、通常の教科学習の学力などととは違い、その変容全体を明確にとらえることが難しい。

食育の効果は、多くの場合、生活実態調査などを手立てにして評価されてきた。生活実態調査は、学校で行った食育が、子どもと家庭環境まで包括してどのように影響をおよぼしたのか、その最終的な効果を示す、一つの指標となるだろう。

しかし、食育は生活実態を改善することのみを目的とするものではない。また、生活という場面には、様々な要素が加わり、学校で行った食育による純粋な「子どもの育ち」をとらえられるのかという点には疑問が残る。そして、何より大きな問題点は子どもの段階的な育ちを読みとれないことである。

例えば「あなたは給食を残しますか」という質問に対して、

①教育介入を行う前の子どもの姿として

「嫌いだから残す」という子どもがいる。 この子どもは「はい」と回答するだろう。

②現在、本校では「食べ物の中に命を実感する実践」等を通して、このような子どもの姿がみられるようになっていく

「食べ物の命を考えると食べたいのだけれど、でもどうしても嫌いで食べることができない。」と心の中で葛藤し、涙をながす子どもがいる。 この子どもは「はい」と回答するだろう。

③こんな場合はどうだろう、

「まわりの空気が残せない雰囲気なので無理に食べている。」、あるいは「おこられるから、いやいや食べている。」 この子どもは「いいえ」と回答するだろう。

②は望ましい食行動に向かって、一つのステップをあげた子どもの姿である。「頭では理解できているが、欲求に打ち勝つことができない。」状態である。ここまでの育ちがみられているにもかかわらず、調査にはそれが表れてこない。逆に③の事例では、子どもの本心からではなく、強制された姿であるにもかかわらず、それが「望ましい食行動」として反映された調査結果となる。

つまり、目標とする望ましい食行動を質問項目にあげ、「はい、いいえ」で回答するような方法では、子どもの育ちの細かな内容まで、明らかにすることは望めないのである。

食育を受けることによる子どもの育ちは段階的なものである。一つの教育実践により、目標とするような姿に到達できるとは考えられない。ゆえに、その評価は各実践がねらいとする段階目標に焦点を合わせ、細かく丁寧にみとっていくことが必要である。子どもの変化を段階ごとに的確に把握することにより、指導効果を確認するとともに、次の指導内容に反映させることにより、迷うことなく子どもを最終目標に導くことができるだろう。

それでは、食育による子どもの学習状況や授業に対する評価を、正当にとらえるためにはどのような手法を用いればよいのだろうか。また、評価の解釈が、指導者の主観によったものでなく、客観的なものであるためにはどうすればよいのだろうか。

本校ではこの点についても課題とし、評価の手法と解釈について研究を行ってきた。

研究は継続中であるが、これまでの実践による子どもの変容については、部分的に明らかにすることができた。これを根拠とし、2006年度研究のまとめを行った。（参考資料：本校研究紀要）

# 1 総合的な評価 自然学校での食育

ワークシートや複数の指導者による観察、精神面の成長をみるアンケート、家庭での事後行動観察など、さまざまな方法（手段）を活用しながら子どもの活動全体を継続的にとらえ、評価を行った。

多面的な角度から、総合的に子どもをみつめることにより、評価の正当性と解釈の客観性が得られると考えた。

## ●本実践における食育のねらい

試行錯誤しながら自分で食事を用意する経験により、生活の中の「食」を自分の問題としてとらえる。また、食生活に関して自分が持つ力に気づき、自己効力感を得る。

## ●評価の観点

- ・「自分にもできる」という自己能力に気づき、自己効力感を得られたか
- ・これからの自分の食生活に対し、積極的な意欲を持てたか

## ●評価方法

①3日間のワークシート、②子どもの活動の様子の観察結果、③アンケート、④事後の家庭からの報告をもとに総合して個人内評価を行った。また、個人内評価をまとめ、学級全体評価とした。

## ●解釈

### 1 ワークシートからの読みとり

3日間のワークシートにより子どもの足跡を追い、自己効力感や、意欲をうかがわせる記述から、育ちをとらえる。

#### 朝ごはん作りのふりかえりワークシート

1 日目

○今日のメニュー

- サンドイッチ
- ベーコンエッグ
- レタス
- イチゴ
- チーズキュウリパン

計5

○工夫したところ 自慢したいところ

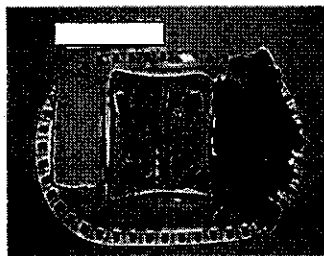
チーズ・キュウリパンははじめチーズをのせてただけだったけど、キュウリをのせて少し色もきれいになった。

○うまくいかなかったところ

ベーコンエッグがまっ黒になってしまった事。

○感想（作ってみて気がついたこと、今日の反省を生かして明日、気をつけようと思うところ、昨日の朝ごはんのできばえとくらべてどうか 等）

ベーコンエッグの時油を入れなかったからまっ黒になってしまったのだから明日はしっかり油を入れて作る。



#### 朝ごはん作りのふりかえりワークシート

2 日目

○今日のメニュー

- ベーコン
- ウィンナー
- レタス
- オレンジ
- 野菜ジュース
- ロールピザパン  
(チーズ、ロールパン、トマト、ピザソース、ウインナー)

○工夫したところ 自慢したいところ

ロールパン「レタス」と「トマト」を入れてロールピザパンを作った事。

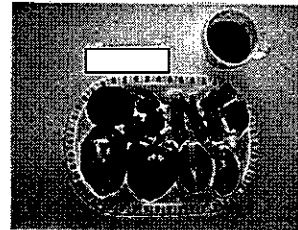
○うまくいかなかったところ

ロールピザパンの一つが少しこけてしまったこと。

○感想（作ってみて気がついたこと、今日の反省を生かして明日、気をつけようと思うところ、昨日の朝ごはんのできばえとくらべてどうか 等）

昨日にくらべてもう少しあげるのかわりよくなったのでそれはとても良かったです。ほくほくは米料理を作るのもいいから一品はあげるのでも、今日はこけるのを一番なめしたと思います。明日は今日よりもっとおいしいものを作りたいです。

明日への意欲

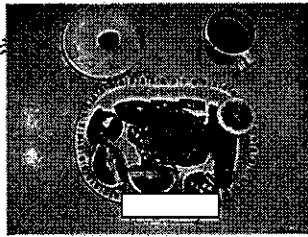


朝ごはん作りのふりかえりワークシート

3 日目

○今日のメニュー

- ハムエッグ の目玉焼きのハム
- 焼きしいたげ
- かまぼこ
- トマト
- オレンジ
- 塩サケ



○工夫したところ 自慢したいところ

ハムエッグは目玉焼きを焼いた後、その上にハムをのせたところ。

○うまくいかなかったところ

塩サケの中身はよくできていたけれど、トマト側のところが少しこけてしまった。

○感想（作ってみて気がついたこと、今日の反省を生かして明日、気をつけようと思うところ、昨日の朝ごはんのできばえとくらべてどうか等）

この3日間料理を作ってみては、料理がうまくなったなあと思いました。初めてサケを焼いて少し失敗して、またけれど初めてにしては、もううまくできたと思います。このがうまくできた事を家で褒めたいと思います。

自己能力への気づき

2 アンケートからの読みとり

自然学校での朝食作りを経験して

自然学校では3回の朝食作りの活動がんばりましたね。この活動をしてみて、どんな自分に気がつきましたか？ 自然学校の前と今の自分を比べて変わったところはありませんか？ふりかえって考えてみましょう。

○自然学校の前の私はこんな私

ぼくは、ときどき料理を作っていたけれど、こんな大人自分で作る朝食作りは、やったことありませんでした。

○朝食作りをしてみて変わったところ・今の私

今の調子だったら家でも毎日作れそうと自信があります。自然学校の朝食作りの前とくらべると自分では、だいぶ料理がうまくなりました。

○活動してみても気づいた、自分の良いところ

ぼくは、最初、ぜんぜん料理がなかったけれど、練習してできるようになったことです。

自信・自己能力への気づき

○お家に帰ってこれからしてみたいこと

朝食、昼食、夕食、お食事を全部作るつもりで、お食事を作りたいです。そして、家の人を楽にさせてあげることです。

行動への意欲

自然学校の事前事後で、精神面の成長をみる。変化のあった場所に下線

食生活のアンケート

4月21日

食生活に対する普段のあなたの様子で、あてはまるものに○をつけましょう

- Q1. お家で、食事作りに進んで参加していますか？  
よく参加する たまに参加する あまり参加しない
- Q2. 料理をして食事を作ることができますか？（お家の人の代わりに）  
できる 少しはできる あまりできない
- Q3. 家の人がしばらく留守になったら3度の食事に困りませんか？  
なんとか生活していく自信がありますか？  
自信がある（全く困らない） どちらでもない（少し困る） あまり自信がない（とても困る）
- Q4. 作ったことのない、作り方を知らない料理でも、自分で考えて、何とか作れると思いますか？  
なんでも作れる だいたい作れる あまり作れない
- Q5. いろんな料理を考えて自分で作ってみたいと思いますか？  
思う 少し思う あまり思わない
- Q6. 料理は難しいと思いますか？  
難しいと思う 難しいと少し思う 難しいとは思わない
- Q7. 料理ができるようになるのは自分のためになると思いますか？  
思う 少し思う あまり思わない
- Q8. 自分が好きですか？  
すき 少しすき ふつう あまり好きではない 好きではない
- Q9. 自分にはいくつかよいところがあると思いますか？  
思う 少し思う あまり思わない
- Q10. お家での食事作りにもっと参加しようと思いますか？  
思う 少し思う あまり思わない

行動

自己効力

食生活のアンケート

5月28日

食生活に対する普段のあなたの様子で、あてはまるものに○をつけましょう

- Q1. お家で、食事作りに進んで参加していますか？  
よく参加する たまに参加する あまり参加しない
- Q2. 料理をして食事を作ることができますか？（お家の人の代わりに）  
できる 少しはできる あまりできない
- Q3. 家の人がしばらく留守になったら3度の食事に困りませんか？  
なんとか生活していく自信がありますか？  
自信がある（全く困らない） どちらでもない（少し困る） あまり自信がない（とても困る）
- Q4. 作ったことのない、作り方を知らない料理でも、自分で考えて、何とか作れると思いますか？  
なんでも作れる だいたい作れる あまり作れない
- Q5. いろんな料理を考えて自分で作ってみたいと思いますか？  
思う 自己効力 あまり思わない
- Q6. 料理は難しいと思いますか？  
難しいと思う 難しいと少し思う 難しいとは思わない
- Q7. 料理ができるようになるのは自分のためになると思いますか？  
思う 少し思う あまり思わない
- Q8. 自分が好きですか？  
すき 少しすき ふつう あまり好きではない 好きではない
- Q9. 自分にはいくつかよいところがあると思いますか？  
思う 少し思う あまり思わない
- Q10. お家での食事作りにもっと参加しようと思いますか？  
思う 少し思う あまり思わない

自尊心

### 3 行動の観察

実践中の子ども様子を複数の指導者で観察した。以下、観察結果。

まわりの子どもたちの動きを参考にしながら、常にマイペースで自分なりの料理をしていた。1日目の失敗から火加減の調節に気づいて2・3日目の活動に生かしていた。洋食の献立を考える子どもたちが多く、3日目には和食メニューに挑戦し、栄養や食品のバランスを考えている言動が見うけられた。盛りつけにも気を配り、工夫をしようとする姿勢があった。献立立案から調理、盛りつけにいたるまで、思考の中に、計算された計画性がうかがえた。

### 4 家庭からの事後報告

自然学校後、保護者から家庭での様子の事後報告をうけた。

(略有)

ある日、私が週末に寝過ごした時、食卓に朝ごはんが用意されていました。(大感激) 具だくさんのみそ汁、卵焼き、きゅうりとじゃこの酢の物、ウインナー焼き、生野菜、うさぎりんご…。

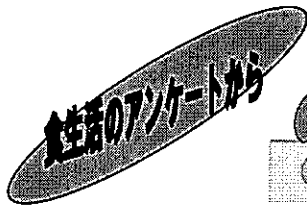
自然学校の朝食作りの後、私が反省したのは、家庭で調理をさせる時、火加減は常に親が管理していたこと、また、任せることをせずに私の補佐的な仕事をさせていたことです。だから、子どもは自信が乏しかったのだと思います。失敗しても子どもに任せてさせることが大切だなと思いました。最近、新しいレパートリーにも挑戦したいらしく、手巻き寿司を作る計画をしています。週末の昼食にと考えています。弟や妹にも期待され、はりきっている〇〇です。…

#### ●評価 (個人内評価)

本児は元々、食に対して関心が高く、調理の技術も持ち合わせていた。しかし、大人の管理下での調理経験しかなく、自己能力への気づきや、自信を獲得するまでにはいたっていなかったとみられる。

自然学校での体験により、調理や献立立案に対する、自らの能力について自覚を深め、自信を持つことができた。この自信が意欲を生みだし、実生活上での行動につながっている。

また、自己能力についての自覚により、自尊心の高まりがみられた。



食生活に対する意識について、自然学校の前後でアンケートを実施しました。  
子どもたちの意識はどう変わったのでしょうか？（学級全体評価）

自然学校食育プログラムは、普段学校教育の中では育てることの難しい、生活の中での子どもの育ちをねらったものです。アンケートは10項目。食生活への自信や自己効力感、積極性や意欲等を問う内容になっています。

結果は 回答（はい・どちらでもない・いいえ）を（2・1・0）ポイントとして数値化し（※）、自然学校前後の意識の変化を分析しました。

（※Q6のみ反対 思う・少し思う・思わない＝0・1・2ポイント）

## 子どもたちの意識変化 ～アンケート結果より～

	設問	評価項目	自然学校前	自然学校後	意識変化
Q1	お家で、食事作りに進んで参加していますか？	行動	3 8	5 1	+ 1 3
Q2	料理をして食事を作ることができますか？（お家の人の代わりに）	自己効力	4 0	5 5	+ 1 5
Q3	家の人がしばらく留守になったら3度の食事に困りませんか？ なんとか生活していく自信がありますか？	自信	3 4	4 2	+ 8
Q4	作ったことのない、作り方を知らない料理でも、自分で考えて、何とか作れると思いますか？	自信	3 5	3 9	+ 4
Q5	いろいろな料理を考えて自分で作ってみたいですか？	積極性・意欲	5 8	6 0	+ 2
Q6	料理は難しいと思いますか？	自己効力	3 2	3 6	+ 4
Q7	料理ができるようになるのは自分のためになると思いますか？	自己管理意識・価値観	5 9	6 0	+ 1
Q8	自分が好きですか？	自尊心	7 3	7 6	+ 3
Q9	自分にはいくつかよいところがあると思いますか？	自尊心	4 1	5 0	+ 9
Q10	お家での食事作りにもっと参加しようと思いますか？	意欲	5 9	6 2	+ 3

## 分析・評価

個人の変化はさまざま、アンケートにより一概に「みんな育った！」と言えるものではありません。けれども、全体的には子どもの意識はプラスの方向に変化しました。

指導者として特に注目しているところは「Q2. お家の人の代わりに料理をして食事を作ることができますか？」「Q3. 家の人がしばらく留守になっても何とか生活していく自信がありますか？」の問いに、自然学校後、多くの子どもが「できる、自信がある」と答えられるようになったことです。このような自信を持ってもらうことを何よりの目的に、プログラムを計画したので、手応えを感じ、とてもうれしかったです。

また、今回、「Q9. 自分にはいくつかよいところがあると思いますか？」という設問で、自尊心が育っていることも見逃せないポイントです。「食」と「自尊心」の間には関係があるということは社会一般的にもしばしば聞かれます。根底にゆるぎない自尊心があつてこそ、健康への願いがわき、生活の質（食）の高まりにつながってゆくのです。子どもたちの自尊心が育ったのは、朝食作りだけでなく、自然学校全体の経験を通して、友だちとかかわり、自分を見つめ、新たな自分を発見することができたからなのでしょう。



自然学校での朝食作りの経験を通して、子どもたちは自分の持つ力に気づき、自信を持つことができました。この取り組みを生きた力にするために、ご家庭でも継続して、食生活に参入できる雰囲気作りをお願いしたいです。